

総合的な学習の時間

感覚特性の多様性の理解を促す学習

授業パッケージ

2024年2月28日

作成：明治大学理工学部建築学科 建築環境計画研究室

## はじめに

たくさんの児童が日常を過ごす学校施設は、喧騒感の高い環境であるほか、様々な環境刺激が混在しています。

自閉スペクトラム症（ASD）など発達障害のある児童については、視覚・聴覚等の様々な感覚特性が非定型であることが多く、日常的な環境においても困りごとを抱えるケースが少なくありません。

この授業パッケージは、感じ方の違いについて考え、様々な感覚特性に対する合理的配慮への理解を深め、「心のバリアフリー」の普及を促すことを目指して作成されました。

「福祉」の学習において主流となっている手話、点字・盲導犬、車椅子体験等と比較して、児童がより自分事として考えられるため、深い学習となることが期待されます。また、周りの人の感じ方を考えるきっかけとなり、児童の生活行動の指導にも有効です。

パッケージには、授業実施に向けた流れ、学習指導案、使用教材、実施事例が含まれています。これらを参考にすることで、授業実施の負担を軽減することが可能となります。

## 目次

1. 授業パッケージの概要	p.2
1. 1 単元名 例	
1. 2 単元目標	
1. 3 単元設定の背景・社会的要請	
1. 4 授業の位置づけ	
1. 5 単元の評価規準 例	
1. 6 授業パッケージの構成	
2. 授業の流れ	p.5
2. 1 実施までの流れ	
2. 2 事前準備	
2. 3 授業当日の流れ	
3. 学習指導案	p.7
4. 使用教材	p.8
4. 1 使用教材 概要	
4. 2 使用教材 例	
5. 実施事例	p.9

## 1. 授業パッケージの概要

ここでいう「単元」は、パッケージ内の2コマ分の授業のテーマを意味している。

### 1. 1 単元名例

「心と心をつなげよう ～感覚にやさしい社会をつくろう～」

### 1. 2 単元目標

「感じ方の見える化」と、学校内の感覚要素を探索する活動を通して、個々の感覚特性や自他の感じ方の違いについて認識するとともに、感覚過敏・鈍麻といった非定型的な特性とそれによる日常の困りごとがある人に対して、自分自身にできることを考え、配慮できるようにする。

### 1. 3 単元設定の背景・社会的要請

ユニバーサル社会の実現に向けて、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が相互に理解を深め支え合う「心のバリアフリー」が推進されており、様々な障害に対して理解を深めることが求められている[1][2]。

見えにくい障害と言われる発達障害は、聴覚や視覚などの感覚に過敏・鈍麻など非定型的な特性があることで日常的な環境においても困りごとを抱えるケースが少なくない[3]。

教育現場では、令和4年度時点で、通常の学級における発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）の可能性のある児童生徒は小・中学校では約8.8%の在籍率とされており、個々の感覚特性を本人や周囲が適切に認識することが学習環境の整備において重要と考えられる[4]。

そこで、身近な学校内における感じ方の見える化を通して、「自他の違い」について自分事として考えることで、見えにくい障害をはじめとした様々な感覚特性に対する合理的配慮への理解を深め、児童の共感的・受容的な力を養う。

#### 参考文献

[1]東京オリンピック・パラリンピック推進本部（内閣官房）関係閣僚会議：ユニバーサルデザイン2020行動計画，2017

[2]内閣府：ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律，2018

[3]高橋秀俊，神尾陽子：自閉スペクトラム症の感覚の特徴，精神神経学雑誌，第120巻，第5号，pp369-383，2018

[4]文部科学省：特別支援教育の充実について，2022

### 1. 4 授業の位置づけ

総合的な学習の時間の学習課題の位置づけの候補としては、以下の2つが主に挙げられる。

例①「福祉」：身の回りの多様な人々とのかかわり方

例②「防災」：地域や学校の一員として、安全なまちづくり、学校づくりにかかわろうとする活動や取組

## 1. 5 単元の評価規準例

### (1) 知識及び技能に関する単元の目標

- 「感じ方の見える化」を体験して、みんなが過ごしやすくする工夫や協力することのよさを理解する。
- 「みんなを大切にする」という福祉の概念を理解する。(知識)
- 友達や他者に自分の思いや考えを伝える方法を工夫して表す。(技能)

### (2) 思考力、判断力、表現力等に関する単元の目標

- 身近な問題から、自分たちが困っていることを考えて、課題をつくることができる。(課題設定)
- 課題解決に向けて、自分たちで「感じ方の見える化マップ (センサリーマップ)」を作るために、情報を収集することができる。(情報の収集)
- 集めた情報を関係づけたり、取捨選択したりして、よりよい環境をつくるための工夫をすることができる。(整理・分析)

### (3) 学びに向かう力、人間性等に関する単元の目標

- 自分のよさに気づき、違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとし、自分にできることを見つけ、進んで取り組もうとする。

## 1. 6 授業パッケージの構成

この授業パッケージは、総合的な学習の時間の授業の2回分を利用することを想定して構成している。

授業は2時限連続(45分間×2コマ)で構成される。1コマ目は、「センサリーグラフ」※1による感じ方の見える化を通じて、自分自身の音の感じ方の特性及び自他の感じ方のちがいを体感的に理解する。2コマ目は、学校内の感覚要素を探索する活動を通じて、学校内を感覚要素の面から見直し、学校環境への新しい視点を得るとともに、「センサリーマップ」※2をはじめとした見えにくい障害に対する合理的配慮について知る。また、自分自身にできる配慮について考える。

授業は、専門家等を副講師とした、協働型出前授業を想定して構成した。詳細については、「3. 学習指導案」に添付された学習指導案の例(p.7)を参照。

授業は、スライド資料をモニターに表示する形式で進行する。児童は、一人一台端末(Chrome OSを想定)を使用し、1コマ目ではGoogleフォームによる「音源聴取ワーク」を、2コマ目ではGoogleジャムボードによる「センサリーマップ作成ワーク」を行う。授業で用いる使用教材については、「4. 使用教材」(p.8)を参照。

※1 センサリーグラフ：身近な環境音源に対する「気になり具合」と「印象」の回答結果をまとめたグラフ。感じ方を見える化することで、音に対する自他の感じ方の違いや多様性を認めることへの理解を促す。(次ページ図1)

※2 センサリーマップ：感覚に影響を与える要素を地図上に示すことで、その場所の状況を把握しやすくするマップ。美術館や博物館で用いられる事例があり、感覚過敏や、未知の空間が苦手という特性のある発達障害者などが事前に施設内の状況を理解して、心身の準備をすることに役立つ。この授業では、センサリーマップを学校内の環境の可視化に応用した。(次ページ図2)

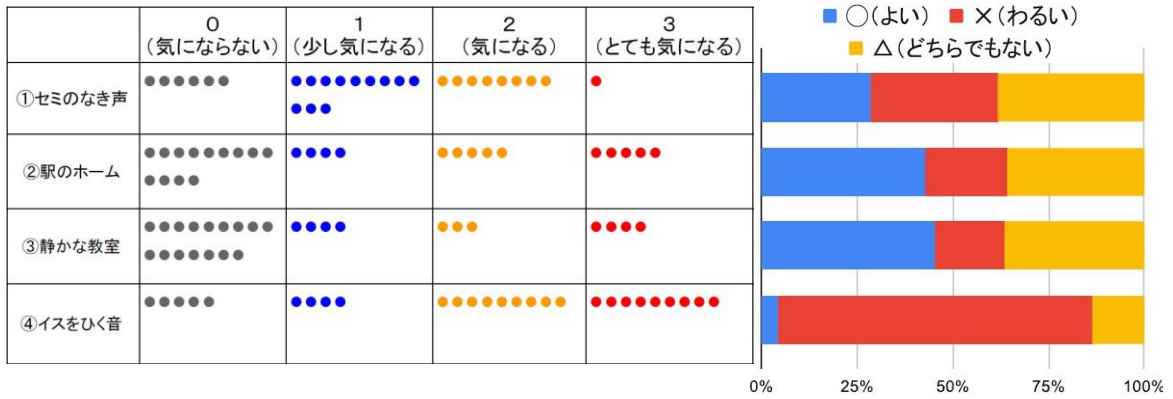


図1. センサリーグラフ

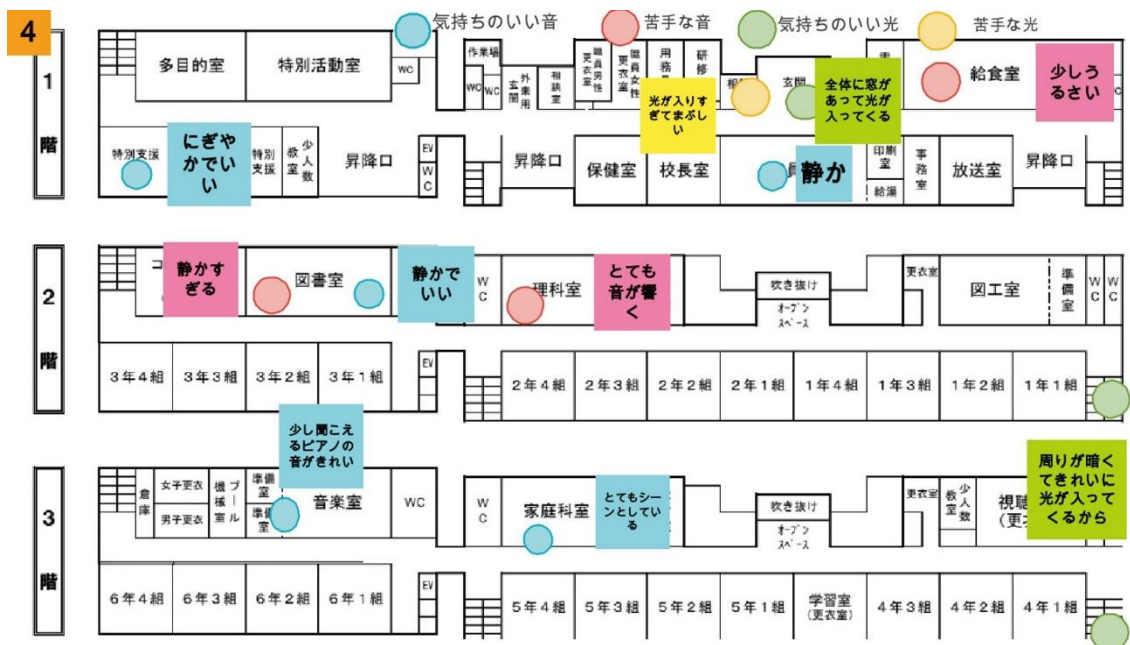


図2. センサリーマップ

## 2. 授業の流れ

### 2. 1 実施までの流れ

この授業は協働型出前授業を想定（「1. 6 授業パッケージの構成」(p.3)）しているため、その前提のもとで実施までの流れを記載する。

まず、副講師となる専門家側が実施する学校に対して打診、または、学校側が専門家に対して打診を行い、企画打ち合わせを行う。企画打ち合わせでは、学習指導案 (p.7) のすり合わせを行うとともに、授業実施日程を決定する。その際、専門家側は実施クラス内にもどのような児童が在籍しているか（人数、特性など）を把握すると良い。授業実施日程については、基本的にはいつでも問題はないが、校内をまわり感覚要素を探索する関係上、気温によるストレスが少ない9月～11月頃に行うことを推奨する。また、意見を活発に交わすことによってより学習効果が期待できるため、活発な意見交換をしやすい曜日、時間帯を選択することを推奨する。

企画打ち合わせ後、授業実施日までの間に使用教材等の事前準備を行う。詳細は「2. 2 事前準備」を参照。

授業当日は、授業実施前にPC・スピーカ等の接続を行い、授業を実施する。詳細は「2. 3 授業当日の流れ」(p.6)を参照。

### 2. 2 事前準備

授業実施の前日までに、以下の項目について事前準備・確認を行う。

- ① 授業スライドの準備
- ② 音源の準備
- ③ 音源聴取ワーク用の Google フォームの作成
- ④ ③の回答 Google スプレッドシートを編集してセンサリーグラフの準備
- ⑤ センサリーマップ作成ワーク用 Google ジャムボードの作成
- ⑥ PC 接続用のケーブル、延長コード等の確認
- ⑦ 音源再生用スピーカの再生方法・接続方法等の確認・音量調整
- ⑧ 主講師と副講師の役割分担・当日の動きの確認
- ⑨ ③、⑤を児童の一人一台端末に共有（前日もしくは当日に学校側が行う）

①～⑤については、「4. 使用教材」(p.8)を参照。③～⑤に関しては、学校の一人一台端末での作成が必須となる。

⑥・⑦は、実際に用いる機器が問題なく接続・再生できるか確認するとともに、音源の再生音量調整を行う（「4. 1 使用教材 概要」(p.8)）。

⑧は、学習指導案の確認を行うとともに、当日のタイムスケジュール等を決定する。

⑨は、授業で用いる資料を、Google クラブルーム等で児童に共有する。

### 2. 3 授業当日の流れ

授業当日は、授業実施前にP C・スピーカ等との接続を行う。可能であれば、音源の再生音量の確認・調整を再度行う。

授業は、基本的には学級担任が進行する。主に、授業全体の進行や、児童へのワークの催促、児童からの意見の引き出し等は、副講師は不慣れであるため、学級担任が行う。

副講師は、1コマ目及び2コマ目の序盤にスライドを用いたレクチャーを行うとともに、それぞれのワークの意見交流の際にコメントを述べる等をする。また、2コマ目の終了時に、スライドを用いて授業のまとめを行う。

授業は、スライド資料をモニターに表示する形式で進行するため、授業のめあて等の重要な部分は児童の記憶に残るよう、学級担任が黒板等に記載し、常に児童が確認できるようにする。

「自他の感じ方のちがいの認識」及び「見えにくい障害に対する合理的配慮を学び、考える」ことを要点としていることを学級担任・副講師ともに認識したうえで、児童の意見交流などではそれらの要点が理解できるよう誘導すると良い。

授業の目的及び主な流れを図3に示す。

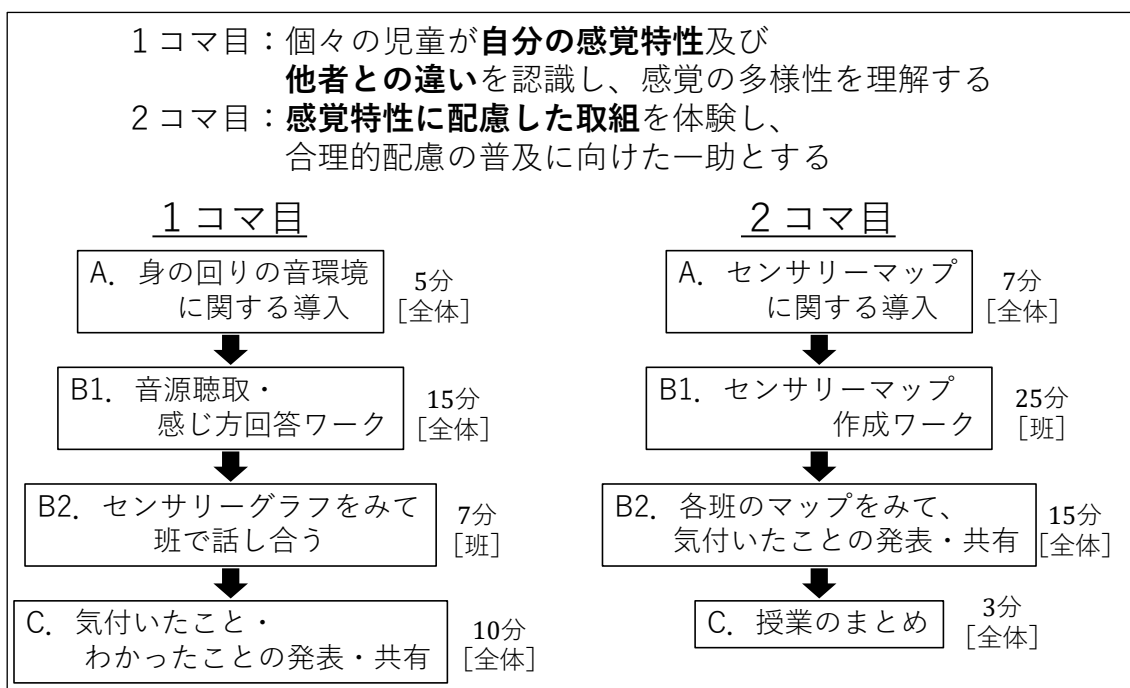


図3. 授業の概要

### 3. 学習指導案

授業実施に先立って、学習指導案を作成する。実施した授業で用いた学習指導案を参考に作成した例を以下に示す。

[学習指導案（例）.docx](#)

[学習指導案（例）.pdf](#)



## 4. 使用教材

### 4. 1 使用教材 概要

使用教材を以下に示す。

- ① 授業スライド
- ② 音源 (1 コマ目で使用)
- ③ 音源聴取ワーク用 Google フォーム
- ④ センサリグラフ (③の回答 Google スプレッドシートを編集)
- ⑤ センサリーマップ作成ワーク用 Google ジャムボード
- ⑥ 一人一台端末 (Chrome OS を想定)
- ⑦ 音源再生用スピーカ (視聴覚室等の備え付けのものを推奨)

②について、授業実践 (2023 年) においては、「駅のホーム (小学校最寄駅にて事前収録)」「セミのなきごえ (「建築と環境のサウンドライブラリ」より)」「静かな教室 (教室内で静かにして耳をすます)」「イスをひく音 (小学校にて事前収録)」の4種類の音源を使用した。等価騒音レベルの測定ができる場合は、児童の耳元あたりの位置で測定を行い、「駅のホーム」は70dB程度、「セミのなきごえ」は72dB程度、「イスをひく音」は82dB程度になるよう調整すると良い。

### 4. 2 使用教材 例

授業で用いる教材の例及び作成方法を以下に示す。

- ① 授業スライド
  - [授業スライド \(例\) .pptx](#) (「発表者のメモ」に台本あり)
  - [授業スライド \(例\) .pdf](#) (pptx と同じ内容・台本なし)
- ② 音源 (1 コマ目で使用)
  - [音源① 駅のホーム](#)
  - [音源② セミのなきごえ](#)
  - [音源④ イスをひく音](#)
- ③ 音源聴取ワーク用 Google フォーム
  - [音源聴取フォーム \(授業パッケージ用\) - Google フォーム.pdf](#)
- ④ センサリグラフ (③の回答 Google スプレッドシートを編集)
  - [Google スプレッドシートでのセンサリグラフ作成・自動化方法.pdf](#)
- ⑤ センサリーマップ作成用 Google ジャムボード
  - [Google ジャムボードでのセンサリーマップ用シート作成手順.pdf](#)

## 5. 実施事例

授業パッケージの作成にあたって、2022年及び2023年に、川崎市立新城小学校において授業実践が行われた。その内容をまとめたドキュメンテーションを以下に示す。

[2023年 新城小ドキュメンテーション.pdf](#)

[2022年 新城小ドキュメンテーション.pdf](#)

2022年実施の授業については、ケーブルテレビニュースによる発信が行われた。

<https://youtu.be/hObRASEp7Yk?si=hhRvIjGJE3hEy-Zz>

(特別授業「感覚にやさしい社会をつくろう」【地モト NEWS】2022/10/31 放送)

2023年実施の授業については、川崎市におけるSDGs推進に向けた具体的な取組の中で、優れた取組を表彰する「かわさきSDGs大賞2023」にて優秀賞を受賞した。

<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000155858.html>

(川崎市ホームページ>「かわさきSDGs大賞2023」が決定しました!)